第２回東海土器研究会シンポジウム

―渥美窯編年の再構築―

テーマ：渥美窯編年の再構築

日　時：２０１３年１１月２日（土）９：３０～１６：３０

場　所：田原市崋山会館　（定員１４０名先着順）

　　　　　　　田原市田原町巴江12-1（田原市博物館隣）

次　第

　　９：３０　開場

　１０：００　開会挨拶　　（贄　元洋：豊橋市文化財センター）

１０：１０　講演：渥美窯研究のあゆみと現状　安井俊則（田原市立田原中学校教諭）

１１：００　土器の分類と編年の方法について（贄　元洋：豊橋市文化財センター）

　１１：２０　「渥美湖西窯の山茶碗編年」碗皿鉢を中心に （鈴木敏則：浜松市博物館）

１２：００　　―昼休憩―

１３：００　「渥美窯の器種分類と壺甕の編年」　 （増山禎之：田原市教育委員会）

　１３：４０　「消費遺跡から見た渥美窯編年」 （贄　元洋：豊橋市文化財センター）

　１４：２０　「京都から見た〈山茶碗〉編年」 （尾野善裕：国立京都博物館）

　１５：００　　―休憩―

　１５：１０　討論

　１６：２０　閉会挨拶　　　　　　　　　　　 （増山禎之：田原市教育委員会）

【開催趣旨】

渥美窯は、12～13世紀頃に渥美半島の全域に分布し、その製品は太平洋岸を北上し、関東や東北まで運ばれた大規模な中世窯です。それだけに、渥美窯製品の分類と編年は、広い地域に影響を与えることになります。この渥美窯製品の分類と編年に関し、どのようにしてその精度を上げていくかは、きわめて重要な問題です。

　渥美窯と湖西中世窯の製品の峻別は可能なのか。碗皿類と壺甕類の分類と編年は、どのように対応するのか。また、消費地で確認できる渥美窯・湖西中世窯の製品と陶磁器や土師器鍋との関係はどのようなものなのか。解決するべき問題点は多くありますが、常により確率の高い資料を確認し、分類と編年の精度を上げていくという視点を持つことが重要です。土器の分類と編年は、いつまでたっても確立するということはありません。常に、新たな発掘資料で検証し続けていくことが必要です。

　今回のシンポジウムでは、これらの問題を少しでも解決して、より精度を上げて渥美窯・中世湖西窯の分類と編年を再構築しようとするものです。